

平成30年度 清流の国ぎふづくり大江川環境対策協議会 議事概要

日時：平成31年1月30日（水）14：00～16：00

場所：岐阜県庁 議会西棟2階 第3会議室

1. 議事

- (1) 平成30年度の水質浄化対策の実施結果について
- (2) 水質調査及びアオコの発生・追跡調査の結果について
- (3) 来年度の水質浄化対策について

2. 議事要旨

- (1) 平成30年度の水質浄化対策の実施結果について

議事の項目(1)の内容について事務局、海津市、岐阜県農政部から説明があり、質疑応答や意見交換がなされた。交わされた質疑応答や意見交換の主な内容は以下のとおりである。

- ・フィルター材による除去は今年から実施したのか。
→ (事務局) 昨年度に試行し、今年度から本格的に実施している。フィルター材の除去によって対応できている状況である。
- ・過去にアオコが集積して腐敗臭の被害が出た馬目橋周辺の面積を除去する場合、どのくらいの期間を要するのか。
→ (事務局) 馬目橋から水門までの区間で、1週間程度要する。
- ・回収した後のアオコ、フィルター材はどのように処分するのか。
→ (事務局) 一度、フィルター材ごと乾燥させて処分する。
- ・水による攪拌作業を3回実施しているが、その成果はどうか。
→ (海津市) 水の攪拌作業としては、消防団で使用しているポンプで水面を攪拌し、アオコが水面に集積するのを少しでも防ぐことができた。そういった意味では一定の効果が得られた。
- ・除去はできないが固まったものを分散させるということで、空気(酸素)が溶け込みやすくなり、腐敗しにくくなる側面がある。除去するような効果はあまり期待できない。

(2) 水質調査及びアオコの発生・追跡調査の結果について

議事の項目(2)の内容について事務局から説明があり、質疑応答や意見交換がなされた。交わされた質疑応答や意見交換の主な内容は以下のとおりである。

- ・下水道整備率や水洗化率を向上させるのもいいが、処理方法によってリンの回収率が違うため、今後の対策を考える上で下水処理の高度化も必要になってくるのではないかと。
→(海津市)水洗化を推進している地区での処理方法は、OD方式である。伊勢湾の総量規制でリン・窒素の濃度を計測しており資料を提供するので、その辺りは来年度ご検討いただきたい。また、高度処理は実施していない。
- ・調査結果から、リンが一番の原因とまとめられているが、ぎふクリーン農業に登録された情報は窒素のみである。農業の取組がアオコ対策に影響あるのかも関連付けた方が良くないか。
→(県農政部)一般的に海津市のリン濃度は全県平均の半分程度で、もともと土壤に含まれるリンの量は少ない。また、営農で利用される化学肥料等について、水に流れるより植物が吸い上げる方が多いため、収支バランスは取れているが、農協と連携し富栄養化しないよう工夫していきたい。
- ・アオコが上流で先に発生し、下流に動くのであれば、フィルター材による除去の方法を県と市で合わせて行うことや、発生が予測できるのであれば、フィルター材の配置場所を考えるなどより効果的ではないか。
→(事務局)定点調査の結果、アオコが上流から下流へ流れるという動きはあまり見られない。フィルター材による除去は、流域を監視しながらアオコの集積が始まったところを中心に実施しており、引き続きこの方法で行う。
- ・アオコ自身の生体にどのような有機・無機成分が吸収されているのかということと水質に関係あると考えられるため、アオコ自身の生体成分を分析してはどうか。
→(事務局)アオコを成分分析にかけるなど、来年度の調査で検討します。
- ・水による攪拌作業で水面をかいて放水するとあるが、水面の温度は下がるのか。
→作業前後の水温の変化は調査していないが、水量が少ないため極端に変わるわけではない。本来の目的は集積したアオコを拡散させるということである。
- ・水温が下がるのであれば、水面温度が30℃を超えた段階で放水すればアオコの発生を防げるのではないかと。
→(事務局)ある程度流域が限定された馬目橋の支川でそのような取組を検討する。

(3) 来年度の水質浄化対策について

議事の項目(3)の内容について事務局、海津市、岐阜県農政部から説明があり、質疑応答や意見交換がなされた。交わされた質疑応答や意見交換の主な内容は以下のとおりである。

- ・ホテイアオイは臭いという話が以前はあったが、その問題についてはなかったか。
→(海津市)それ自体は臭くないが、腐敗すると臭くなる。
- ・ホテイアオイは枯れると沈み、沈むと腐敗して浮くため臭くなる。しかし、それ自身は水中の栄養塩類の吸収や、水面を覆い水温を下げる効果もある。なかなか難しいが、うまく水草の類を使い、共生すればより良い水地や河川ができると思う。
- ・枯れる前に上手に回転させていけばいいが、すぐに繁茂してしまう。繁茂した後の処理が非常に難しい。
- ・アオコが発生する箇所ではホテイアオイのコントロールができるなら、水面を覆い水温を下げるなどのコントロールができるが、難しく非現実的ということである。
- ・ウキクサも同様に発生すると川の表面を覆い、水温を下げる。また、窒素やリンを吸収する効果もあるため、アオコが発生しなくなる。毎年温暖化が進むと水温が30℃以上になる日が続くため、ホテイアオイやウキクサなど他の植物とうまく共生する面も考える必要がある。また、川に流水がないため、ホテイアオイ等が一面を覆ってしまう。そのため、これからの対策は、流水についてももう少し考えること、水面温度を均一的に低くすることを考えた方がよい。